

発酵生産学科の思い出（昭和 37～41）（1962～1966）

牧野好男（発酵 S 41 卒）

私は、昭和 37 年 4 月に山梨大学工学部発酵生産学科（1962F 生、発酵第 6 回生）に入学。発酵生産学科は、国立大学 1 期・2 期校の中で発酵学・応用微生物学（バイオ学のはしり）が工学部にあるというのが全国で 3 校（大阪・広島・山梨）ありユニークな学科であることが当時の蛍雪時代で紹介され大学のマイスター制度も紹介されていました。入学同期生は、27 人でした。が、その内の 2 人は、途中で退学（1 人は大阪の味噌メーカーの子息で一年夏、もう 1 人は長野県出身の山男で二年夏に山男となり）し、卒業は 25 人であるが、第 5 回生の先輩お 1 人卒論が同じとなり昭和 41 年 3 月卒業は 26 名でした。

発酵生産学科の研究棟の北側にある藤棚の下の階段で記念撮影。



昭和 37 年 4 月入学時の写真 後列左から 2 番目が牧野（アイウエオ順）

発酵生産学科の徽章は「F」（エフ）であり、発酵・英訳の **Fermentation** の F と思いますが、そうではなく **Food Technology** の F です。先生方は、東京大学の農芸化学科出身の先生方が主力で、ほかに大阪大学工学部発酵科、千葉大学薬学部、東京教育大学ほかの先生方で構成され国立大学の 2 期校ではありながら新設でもあり、先生方と学生が一体となって学問、学生生活等に意欲的であった事を思い出します。応用微生物学、醸造学、食品

化学、分析化学、発酵工学、薬品化学等が専門課程となり、卒論講座は、6講座でした。

1年次、2年次は、基礎講座として発酵生産学科、応用化学科、土木工学科と一緒に受講し、その基礎講座は、無機化学、有機化学、応用数学、体育・・・だったと思います。

2年次から発酵生産学科の応用微生物実験が始まり、顕微鏡観察から、微生物実験があり、酵母、麹菌等の接種・培養の無菌操作など白衣を着用して微生物実験が始まる。この白衣を着用しての講義は、専門課程の入り口に立ったという感じで懐かしい思い出であります。



応用微生物実験の休憩時間の合間に、同期生で 5 月の平戸つつじ満開を背景に微生物実験の細部にわたり、お世話になった山崎豊彦助手の先生にも入ってもらってスナップを撮る。なつかしい光景であり、山梨大学・学生時代の本当にさわやかな思い出であります。



これは、早くも卒業を前にした 4 年生の時、同期生で発酵生産学科の研究棟をバックに撮ったスナップである。これまた懐かしいスナップであり、白衣もあれば、学生服もあり、ジャケットを着ているものもあり、懐かしいスナップであります。



昭和 40 年度（1966 年）（第 6 回卒業生）発酵生産学科卒業生の送別会の写真
これは、前列部分が卒業生、後ろに 3 年生、2 年生、恩師の先生方全員の写真であり、貴重な懐かしい写真であります。場所は、甲府湯村温泉の昇仙閣でした。

下記の写真は、私達・発酵第 6 回卒業生のそれぞれ卒業講座ごとの写真です。
第 1 講座から第 6 講座のそれぞれ講座ごとの恩師の全員に入ってもらった懐かしい貴重な写真であります。



第1講座卒業生と恩師達（牧野 後列中）



1 講座の卒業写真（卒業生 5 人）（牧野は右端）



第2講座卒業と恩師達（後ろの5人が卒業生）



第3講座卒業と恩師達（前列6人が卒業生）



第4講座卒業生と恩師達（前列右、後列真ん中2人が卒業生）



第5講座卒業生と恩師達（後列左・右が卒業生）



第6講座卒業生と恩師達（前列右側3人、左側1人、ひとり欠）

以上で発酵生産学科第6回生（昭和40年度卒業、昭和41年3月卒業生、1966年）をスナップ写真と共に思い出すままに簡単に取り上げてみました。

なお、発酵生産学科の名称は、平成4年（1992年）第32回卒業生が最後の卒業生となり、その後、化学生物工学科（生物学コース）に移行、さらに物質・生命工学科、その後、生命工学科に移行、そして、平成24年（2012年）に工学部から現在の生命環境学部に移行しております。また、平成27年（2015年）には、大村智特別荣誉博士（北里大学特別荣誉教授）（昭和38~39年、当時発酵生産学科第5講・助手）がノーベル医学生理学賞受章という記憶にも新しい輝かしい特別情報があります。

長い人生から思い返せば一握りの短い4年間（内、同期の3人は大学院に進む）ではありましたが、その中には一般教養から専門課程の学問全般・卒論実験・卒論発表等、同期友人関係、発酵の恩師・先輩・後輩関係、実生活、部活内容等と懐かしい思い出は尽きません。充実した学生生活を昭和41年（1966年）3月に卒業し、現在の今、満52年の年月が経過して70歳代の後半を迎えております。この間に残念ながら同期26名の内5名が黄泉の国に旅立っております。いつまでも元気は無理ですが、息災で動ける自分でありたいと思う近況です。

（平成30年、5月 牧野好男 記）（2018年）